

デジタル保育の創造実践

学習デジタル教材コンクール 文部科学大臣賞!
ICT夢コンテスト 審査委員長特別賞!



アナログ保育の創造実践

ソニー幼児教育支援プログラム 連続入賞!
日本保育協会「遊びと学び」研究奨励賞!



沿革

- S.48 社会福祉法人上名福祉会
つるみね保育園定員 60 名で開園
- H.16 定員 45 名
- H.17 バス送迎開始
- H.22 定員 50 名
- H.23 赤ちゃんの家増設
- H.24 人工芝園庭完成



- H.24 第2園庭造成
- H.24 築山人工芝スキー場造成
- H.24 150m クロスカントリー造成



- H.25 デジタルハウス「アトムの家」新築



つるみね保育園

〒893-1101
 鹿児島県鹿屋市吾平町上名 6646-3
 Tel / Fax : 0994-58-6262
 Mail : abcdefg@po5.synapse.ne.jp



保育の詳細は、
ホームページで

つるみね保育園

検索

未来をたくましく生き抜く力を育む!

未来創造カリキュラム

9割のアナログ保育と1割のデジタル保育



「デジタル保育」は
つるみね保育園の
登録商標です。

つるみね保育園

かのや あいら
 鹿児島県 鹿屋市 吾平町



● 思考的未来力

パズル、けん玉、知恵の輪、紙ちぎりなど、短時間で集中して、思考を深めることを楽しめます。



● 音楽的未来力

青空の下で、ギターとアコーディオンの伴奏で、音楽レクリエーションを楽しみます。



● 表現的未来力

多くの人前で、堂々と発表することを楽しみます。



● 道徳的未来力

緑陰での読み聞かせ、祖父母や保護者や高齢者施設での交流を楽しみます。



● 伝統的未来力

わらべ歌遊びで、異年齢の交流を楽しみます。
ソーメン流しや季節の行事を楽しみます。



● 言語的未来力

イングリッシュタイムでは、外国文化の体験やライブ中継での会話を楽しみます。
ひらがなタイムは、文字の読み書きを楽しみます。

のびのび ほのぼの 元気いっぱい 笑顔いっぱい つるみねっ子

安心・安全・愛情 3つの「あ」を大切にする

つるみね保育園 11の未来力を育む！

表現

思考的未来力

パズルタイム

音楽的未来力

ほのぼのタイム
童謡タイム

表現的未来力

プレゼンタイム
アートタイム

人間関係

道徳的未来力

読み聞かせタイム

伝統的未来力

むかし遊びタイム

つるみね保育園 未来創造 カリキュラム

環境

科学的未来力

科学タイム

自然的未来力

エンジョイタイム

先進的未来力

デジタルタイム
グローバルタイム

健康的未来力

元気タイム

運動的未来力

のびのびタイム
体操ランニングタイム

言葉

言語的未来力

ひらがなタイム
イングリッシュタイム

健康



心やさしい
10万馬力の科学の子！

● 科学的未来力

毎週、科学タイムで、「？」と「！」がいっぱいの科学あそびを楽しみます。



● 自然的未来力

恵まれた保育環境を生かし、さまざまな自然体験を楽しみます。



● 先進的未来力

デジタル化・グローバル化が進む未来へ向け、最先端のデジタル技術を正しく利用し、楽しめます。



● 健康的未来力

食育や衛生指導でのデジタル技術活用の研究を進め、正しい知識をわかりやすく伝え、実際の生活に生かします。



● 運動的未来力

国立鹿屋体育大学と連携し、コーディネーション能力を伸ばすために、さまざまな運動遊びを楽しみます。



9割のアナログ保育と1割のデジタル保育 ～過疎地の保育に光を与える未来創造イノベーション！ つるみね保育園 園長 杉本正和

デジタル技術のよりよい活用が、過疎地と都会との距離感をなくし、子どもたちに大きな夢を描かせることができるという信念で、デジタル保育という言葉を創造し、実践を続け、3年になるうとしている。ICT夢コンテストで審査委員長特別賞、学習デジタル教材コンクールで文部科学大臣賞を受賞し、一気に多くの方々に注目していただけるようになり、さまざまな意見やアイデアを拝聴することができるようになった。そのため、デジタル保育の質も大きく向上し、幼児教育での活用事例を5つの特色で分類できるようになった。受賞後も研究の歩みを止めることのない、未来を見据えた創造的実践的な研究を検証していただきたい。

デジタル保育 5つの特色

1. グローバルな感覚を磨く・コミュニケーションを楽しむ

GoogleEarth、Facetime、Skype、翻訳アプリなどの活用で海外との交流が簡単にでき、子どもたちの視野が大きく広がっている。「How are you?」、「I'm happy.」、「アンニョンハセヨ」、「カムサハムニダ」など、臆することなく、外国人に話しかける姿を見ると、コミュニケーション能力が大きく高まっていることを実感できる。



2. 生きるための正しい知識を伝える

食育では毎月1回、県外や海外の献立を紹介し、栄養指導等を行っている。衛生指導も定期的に行い、健康安全に留意できる子どもが育っている。また、自然の素晴らしさや脅威も大画面で正しく伝えている。



3. 表現力・思考力を高め、発表を楽しむ

過疎地の子どもたちにとって、最も課題となっているのが表現力であるが、つるみね保育園では、家庭から届いた自慢の写真を大画面で発表し、質疑応答・意見交換を楽しむプレゼンタイムを続けており、飛躍的に表現力・思考力が向上している。昆虫・植物・科学遊びの写真を使って、思考を深める科学タイムも特色である。



4. 社会性・道徳心を育てる

デジタル新聞などの写真や動画を活用すれば、ニュースや情報も、わかりやすく伝えることができる。また、絵本も、さまざまな工夫がしてあり、子どもたちの社会性・道徳心を大きく高める有効な方法になっている。



5. 先進性・創造性を楽しむ

デジタル保育の研究は、まだまだ初期段階。全職員で試行錯誤しながらの実践を続け、先進的で創造的なワクワク体験ができる活用方法を練り上げていきたい。それが、さまざまな未来力育成につながるはずである。



実践の特長・ねらい

デジタル技術の活用は過疎地の子どもたちにも大きな自信を育てている。特に、FacetimeやSkypeで、外国とのライブ中継や県外の幼稚園との交流は、子どもたちの大きな刺激となっている。また、自慢の写真を使って、堂々と意見を発表し、質疑応答を楽しむ姿は、実に頼もしく感じる。このように、つるみね保育園では先進的な保育を大いに楽しんでいるが、教育界や保育界では、さまざまな課題を指摘し、ほとんど利用されることがなく、残念な気持ちになっている。だからこそ、こんな過疎地の小さな保育園が実践している様子を研究発表することで、よりよいデジタル技術活用の利用や普及が進み、関心が高まると考えている。子どもたちの笑顔のため、職員の意識改革のため、未来の教育や保育のため、積極的に発信する機会を得るために情熱を継続させ尽力したい。

デジタル技術活用の工夫

つるみね保育園は、「みんなで1台のiPad(タブレット)」で、研究成果を実証したいと考えている。それは、①予算面においても普及を推進できる。②よりよい活用方法や情報をプロジェクターの大画面で共有したほうが正しい知識を伝えられる。と判断しているからである。また、指導する側の職員が、タブレット機器の良さを十分に理解することが重要だと考え、さまざまな場面での利用を促進している。特に、発表会でのバック絵として、短焦点プロジェクターとiPadを活用(上記のカウボーイ遊戯の写真)する方法は、従来、長い時間が必要だったバック絵作成の手作業から解放され、職員・保護者からも大好評である。仕事の効率化に不可欠である。

実践の成果

「未来創造」という大きなテーマを掲げた保育研究も、まもなく3年。視察に来園された方々から、「目から鱗の実践だ!」、「驚愕した!」、「こんな所で、こんな保育が!」、「アナログとデジタルのバランスが良い!」、「未来に目を向けたカリキュラムだ!」など、大きな評価を受けており、これまでに、批判的な意見は、一度も耳にしていない。また、全保護者の支援や信頼も得ている。子どもたちの変容を、**4つの成果**にまとめてみたい。

①発表力・表現力の飛躍的な向上が図れる

4歳児と5歳児のプレゼン能力の高さと意欲の向上は、指導している私たちも驚くほどの成果が見られる。幼児だからこそ素直に表現でき、見ていても聞いていても微笑ましい時間になっている。自慢の写真をピンチし、大きく引き伸ばした理由を発表。さらに、質疑応答、感想と続き、最後は発表者の良い面を探し、称賛する。友だちから認められることは、一番のコミュニケーション体験であり、人間関係や絆も確実に深まっている。また、家庭から届く写真によって、家庭と保育園のコミュニケーションが飛躍的に向上している。発表力と表現力は、過疎地の大きな課題であったが、プレゼンタイムの継続と実践により、一番の得意な分野となっている。

②保育の幅・笑顔の幅・好奇心の幅が大きく広がる

自然体験的な保育が重要であることは間違いない。しかし、近年は、熱中症、豪雨、豪雪、pm2.5、(鹿児島では火山灰)など、園庭での活動も制約を受けている。そんな時、室内での保育に、デジタル技術活用が加わることで、保育の幅を大きく広げることができる。それに伴い、子どもたちの笑顔の幅も大きく広がっている。

③過疎地でもデジタル技術活用で大きな夢を描ける

「日本って、小っちゃいんだね!」と、GoogleEarthを叫んだ4歳児の姿を忘れることができない。日本の地理的な特徴を知ることにより、グローバルな視野が広がったと感じた。また、FacetimeやSkypeを使っての海外とのライブ中継は、子どもたちの好奇心を大いにくすぐっている。これまで、シンガポール、韓国、アメリカ、フィリピンと複数回、中継している。英語やハンガルの看板、行き交う人の人種の違いを見ることができ、刺激の多い時間となっている。また、外国人との交流の際、翻訳アプリを活用して、積極的に外国語に挑戦する姿が見られる。このように、自然豊かな環境だけが自慢の保育園だったが、田舎からでも世界を意識できるような保育が展開できるようになっている。決して、都会の子どもたちに負けないような保育環境を備えることができ、子どもたちの夢や目標も大きな変化が見られるようになっている。このように都会と過疎地の距離感を縮めることができるのが、デジタル技術活用の良さである。日本中の過疎地の施設でも実践し実感していただけるように紹介したい。

④理解力が大きく向上する

毎月1回の郷土料理の日に、県外や海外の献立を取り入れ、その説明の際、デジタル技術を活用することで、正しい知識を理解し、偏食指導にもつながっている。さらに、道徳性や社会性を育てるために、画像を利用することで、子どもたちの意識の変容が確実に見られる。また、運動や踊りなど、自分の姿を動画で振り返ることで、指導のポイントを自分自身でも理解できる。土曜日の授業が始まるほど、鹿児島県の学力低下は大きな課題となっているが、地理的に不便な地域であるからこそ、デジタル技術を先進的に活用し、学力向上に役立ててほしいと感じている。学習への興味関心意欲も向上し、未来を生き抜く力へつながると確信している。